



みずみどり

2020年 3月15日 第137号

発行：いたばし水と緑の会事務局

年会費 2,000 円 郵便振替 00170-8-352508 いたばし水と緑の会  
<http://mizumidori2.eco.coocan.jp>E-mail : [mizumidori@nifty.com](mailto:mizumidori@nifty.com)

〒174-0063 板橋区前野町 5-31-7 瀬田方 tel&amp;fax3969-7124

# とんぼ池 がんばってほしい

## あいふれた自然を残したい

## オタマジャクシを守りたい

### ガーン 湧き水が止まった

2月15日渡辺さんからとんぼ池が干上がっているという連絡をいただき、16日に雨の中、山田さん、瀬田さんと調査。水源下の湧水マンホールには少ないものの水は出ていました。水源からとんぼ池の間の歩道の下を湧水の管が通っています。この最後のマンホールでは水が流れていませんでした。環境課に連絡し、対策をお願いしました。

池に戻るとクックツツと言うカエルの声。探すと3匹いました。暖かかったのもう産卵に来たようです。干上がった池でカエルたちは困っています。どうしよう??



とりあえず塩素入りの水道水を入れることにしました。

2月22日、卵が2カ所に、24日には7カ所がありました（写真）。



池の底はゴムシートと粘土で防水されていますが、すぐに干上がってしまい、一日おきに給水しました。よい機会だからカエルやカエルの子ども達を観察しよう。3月5日、産卵から約12日で卵を保護していた寒天のようなものが溶けて黒いブツブツした卵が沈んでいます。

水が溜まるまでの間、散歩の途中で立ち寄られた方達とおしゃべりします。「カエルの卵はかえたかしら」、「オタマジャクシはいるかしら」。

とんぼ池は多くの方が訪れるため池公園の美術館の隣にあり、自然をPRする広告塔になっています。ご近所の方から昔の自然をお話いただくことも多く、とんぼ池を見ると昔のこのあたりの自然を思い出すとも。カエルの話になると「家の庭には踏みつけるほどカエルがいたけど、今いないねえ」。とんぼ池も以前は「カエルたちがもっといっぱい来た」し「卵も多かった」。

普段気が付かない身近な自然や生き物達の生活が見えてきます。

生まれたオタマジャクシには、カルガモやザリガニ、ヘビなど天敵が多く、ほとんどいなくなってしまうこと、生き延びたオタマジャクシが、手足がはえてエラがなくなり、たった1cmほどの小さなカエルになって上陸し（肺呼吸になり）、それから大きなカエルになるまでに多難な人生が待っていること等々。オタマジャクシのうちにいなくなってしまうはかないカエルの命を思うと、つい「がんばって」と応援してしまいます。

給水量が足りなかったのか、3月7日、水が干上がっていました。



干上がった地面に鳥の足跡（写真左）や動物の足跡があり、そこにあった卵は全部なくなっていました。また別の場所の卵は乾いて干からびていました。

生き残った卵も、卵を守る寒天のようなものが溶け、黒いブツブツがむき出しで、塩素入りの水道水は有害なはずです。

毎日少しずつ水道水を補給して、様子を見守ることにしました。

3月11日は4月下旬の陽気。カエルが来ました（次頁上）。オス2匹のようです。翌日には卵がありました。



少なくともいいから湧き水があれば、それなりに生き物達が生きていけます。

以前は、何もしないのが自然だと思っていました。自然を維持するのは思ったほど簡単ではありませんでした。ヘドロが溜まり、アオコが発生し、悪臭もする。だから私たちは冬の間にとんぼ池の水を抜いて枯れ草を刈り、池底の落葉を取り、生き物がいないか調査し（ザリガニしかいないので）ザリガニを駆除しています。



### 貧しくなった私たちの「手の技」

とんぼ池は2014年に水と緑の会が助成金をもらって専門業者をお願いして浅い棚田風に改修し、池中の作業が出来るようになりました。工事には私たちボランティアも汗を流しましたが、素人ですからお手伝いです。畦（あぜ）は人が踏み、大雨でゆるみ、ザリガニが開けた巣穴により崩れ、2018年にまた専門業者をお願いして修理してもらいました。

2年たってまた畦が崩れてきてしまいました。今度はどうするか考えました。以前は「手の技」をもったおじいちゃん会員にいろいろ教えてもらいました。段取りや後片付け、自然材の徹底利用、またちょっとしたこと・例えばきちっと締まるシュロ縄結びができる人も多く、私も教わりました（もう忘れた）。そういう技術の伝承が大切ですね。

インターネットで「あぜの直しかた」を調べたら出ていました。

ここはミニチュア棚田です。労働量はたいしたことはありません。試しにおばあさん一人でやってみることにしました。

崩れた畦に大きな石や太い木の枝や土嚢を埋め込んで補強し、池底の泥（粘土）をすくって畦に塗りました。田植えの前に田んぼの畦を補強するために土を塗る作業を「畦塗り」というそうです。足元はズブズブだし、へっぴり腰で鍬を使って泥を塗るのですが、粘土質の泥が鍬から落ちません。なので、泥の塊を手にとって畦に叩きつけるようにして塗りました。泥がはねるけど、ストレス解消でおもしろい。子どもにやらせたら喜ぶだろうなあ、いや今の子どもは尻込みするかなあ、と思いながら泥の塊を叩きつけて・・・ボチボチやっけどろんこ体験は数日で終わりました。美田にはほど遠い雑な仕上がりに。

畦ぬりをしたのですが、土台の修理がいい加減だったので、池に水道水を入れると、畦の下から水が漏れました。それに泥を塗った畦に新しいザリガニ穴が空けられていました。穴が見つかったら、昔真田さんに教わったように湿った枯葉を詰め込んで塞ぎました。高村薫の小説「土の記」を思い出して、農業にはいろんな技や記憶や伝えられているのだろうと想像しました。

追記 環境課から、3月16日から水路の修理をするという連絡がありました。

# 環境なんでも見本市に出展

## 今年のテーマはSDGsだって

2月8日（土）と9日（日）に、エコポリスセンターで環境なんでも見本市が開かれ、いたばし水と緑の会は今年も出展しました。

水と緑の会は、都会の中に自然を残したいと活動している団体です。赤塚のどんぼ池とバッタ広場の保全活動から、見ようと思わなければ見えてこない生き物達を紹介しています。



今年は、こんなクイズを出しました。

クイズ「虫たちは草がいっぱい生えているところが好きです。餌もあるし、隠れたりできるからです。隠れている虫をさがしてください。2ひき以上いるのはどれでしょう」。

チョウチョのサナギ、カナヘビ、枯れ枝みたいなナナフシモドキ、トンボ、ショウリヨウバッタ、セスジツユムシがいる草むらの写真を見て探してもらいます。



パネル展示は壁紙のようなもので、あまり見てもらえるものではないけれど、ここではみんな写真を覗き込んで探しました。全然見つけられない人もいましたが、子ども達は見つけるのがうまい。

展示品は、公園で拾った甲虫等の死骸、セミやセミの抜け殻（セミなんてバカにははいけない。セミの種類、オスとメスの違い、セミの口のつくりなどをよく見ると発見が

あり面白い）、ヘビ、カナヘビ、カメムシ、カマキリなど脱皮殻・・・なぜか子ども達は触りたくなる、毛虫の糞、ムシコブ等々生き物達が残したカケラ。それから大物はモグラの剥製。ドングリのいろいろと見分け方、輪切りにした木で年輪を数えます。

自然は屋外で見るのが一番ですが、外で自然に触れる機会も減っているし、屋内の会場なのでこんな体験で身近な自然を紹介しています。まちなかに住んでいる生き物達のことも考えてほしい。自然と友だちになり、生きものたちにやさしい目を向けてほしいと願っています。

今年のテーマは、「SDGs」。SDGsとは、2015年国連で採択された持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals）の意味で、17の目標が掲げられています。私も数年前は読み方がわかりませんでした。エス・ディ・ジーズ（目標が複数あるので複数形です）と読みます。

言葉だけ先行している感じですね。どのブースもSDGsのNoが掲げられ、どこがSDGsなのと首をかきげたくなるものも結構ありましたが、まずはSDGsを意識することから始めようということですね。

水と緑の会は、ささやかな活動ですが、SDGsの次の目標を掲げました。

- No 11 住み続けられるまちづくりを（自然のなくなったまちはつまらないでしょう？）
- No 13 気候変動に具体的な対策を（植物は二酸化炭素を吸収し、夏の猛暑を緩和します）
- No 15 陸の豊かさも守ろう（多様な生き物がすめるビオトープをつくり維持しています）
- No 17 パートナーシップで目標を達成しよう（みんなでいっしょにやろうよ）

身近な自然を豊かにして子ども達の世代に残したいです。



# 冬のバッタ広場



2月22日（土）、とんぼ池の様子を見た後、城址で久しぶりのササ刈り。冬のバッタ広場のササ刈りは越冬している生き物達の隠れ場所を荒らしているような気がして、申し訳ないような気がします。

不破さんがササの中にいたクビキリギリスをみんなに見せてくれました。鮮やかな緑色です（写真左）。

ムラサキシジミが羽を広げてきれいな紫色をみせていました。写真を撮ろうとカメラを構えたら逃げられました。

それからカマキリの卵さがし。

カマキリの卵は、昨年11月10日の観察会で調査し、オオカマキリ44個、ハラビロカマキリ8個見つけました。全部で52個です。多いと思いませんか。卵はメスしか産みません。しかし、1回以上産卵するそうなので、卵の数イコールメスの数ではありません。春までの間その卵が少しずつ消えて行きます。ササ刈りでなくなったり、冬の餌のない時期、野鳥たちのご馳走になるらしい。写真右は半分かじられたカマキリの卵です。



3月に予定されていた高島高校の地域学習では、会はバッタ広場の活動を希望しました。コロナウイルスで中止になりました。・・残念

冬の枯れ野で、こんな観察会とササ刈りを高校生達とやったら、面白いだろうなあと思いました。ササ刈りの戦力も期待していました。中止になって残念です。彼らのために刈らずに残しておいたササをこれからせつせと刈ることになります。

# 城址斜面林の生物多様性保全事業

工事は10月ごろから始まりました。

生物多様性保全事業は城址の他に大門地区、沖山地区でも実施。城址では西向き斜面樹林地と東向き斜面樹林地の2地域です。

案内看板には、「城址地区の東向き斜面では、鳥や昆虫等の動物や植物の生育環境を整えるため、うす暗くなった林内を明るくします。本工事では高木の間引き、常緑低木やササの下刈りを行います」と書いてありました。右はその説明図です。

暗い森を嫌う人もいれば、自然のままだよという人もいます。

美術館裏の水路から見ると、斜面下は萌芽更新（木の若返り）のためほとんど切られています。日当たりがよくなって下草や若い木が育つ、樹林地の若返りが目的です。私は木を伐採するなら、高い位置で切ってほしいと要望しました。萌芽が踏まれたりササなどと一緒に刈られたりしないよう守るためです。何十年も手を入れないできた森が、一気にスカスカに切られた姿は痛々しいですが、日が射し込めば何かが生きてくるでしょう。森を利用する生き物にも変化があるでしょう。よいのか悪いのか私にはわかりませんが、どんな変化が起こるのか、興味があります。一緒に見守っていきましょう。



写真：美術館裏の水路から見た斜面林

# 活動のお知らせ

活動の問い合わせ等は事務局 瀬田（3969-7124）または  
坂本 090-4618-1295

## 1 赤塚ビオトープ（赤塚トンボ池、バッタ広場）の手入れ

3月28日（土）10:00～11:30 バッタ広場の手入れ（草刈り）

4月25日（土）10:00～11:30 バッタ広場の手入れ（草刈り）

集合場所：赤塚トンボ池前

雨天の場合は中止（または翌日） 問い合わせは：事務局まで

汚れてもよい靴と服装で。軍手（作業手袋）

## 2 赤塚城址自然観察会（第2日曜日）

どなたでも参加できます。子どもさんも一緒にどうぞ。生きものは観察したら自然に返してね。30分程度ササ刈り等もやります（カマは用意します）。

小雨でも実施。連絡先：事務局まで

4月12日（日）10:00～11:30

5月10日（日）10:00～11:30

集合場所：板橋美術館そばの赤塚トンボ池前

参加費：無料（保険には加入していません）

もってくるもの：あれば双眼鏡、虫眼鏡、図鑑

## 3 日暮台公園と樹林地の観察

4月5日（日）10:00～11:30

5月3日（日）10:00～11:30

日暮台公園前集合

連絡先：事務局または坂本（090-4618-1295）

### ●ビオトープボランティア大歓迎

いたばし水と緑の会は、自然と共存するまちづくりをテーマに、ビオトープ（赤塚トンボ池と赤塚公園バッタ広場）などの観察と手入れ作業、日暮台公園自然樹林地の定点調査などを行っています。定点の観察と手入れを通して、季節の変化や新しい発見があって楽しいですよ。

●会員になってくださると板橋の自然情報を中心とした会報「みずみどり」（隔月発行）お送りします（年会費2000円：振込先は表紙に記載）。

●身近な自然情報やご意見などをお寄せ下さい。